

福知山公立大学 2025 年度入学式 式辞

本日、福知山公立大学に入学されました地域経営学部地域経営学科 88 名、編入学 4 名、医療福祉経営学科 26 名、編入学 1 名、情報学部情報学科 108 名、そして大学院地域情報学研究科 16 名、合わせて 243 名のみなさん、ご入学おめでとうございます。教職員を代表して、みなさまに心よりの歓迎の意を表します。また、これまでみなさんを育み慈しんでこられたご家族・ご親族のみなさまにも心よりお慶びを申し上げます。福知山市長大橋一夫様に来賓としておいでいただき、ここに入学式を挙げて下さること深く感謝申し上げます。

さて、みなさんはこれから本学で大学生としての生活を始めることとなります。その新たな扉を開くにあたり、まずお伝えしておきたいのは「大学での学びは、高校までの学びとは根本的に異なる」ということです。高校までの学びは、既に確立された知識体系を、教科書や授業、試験という枠組みの中で、正確に理解し活用する力を身につけるものでした。問いに対して「正解」があり、それを見つけ出すことが評価される場面が多かったと思いますし、大学への入学試験がそのような学びの最終段階だったこととなります。

一方、大学での学びには、あらかじめ「正解」が用意されているとは限りません。もちろん、大学でも、高校までと同じように、既に確立している知識体系を受動的に身につけることも重要ではありますが、しかし、大学での学びの本質はそこにはありません。むしろ、「この社会において、私たちはどのような問いを立てるべきか」ということ自体を、自ら考え、模索していくことが、まず求められます。問いを立てる力こそが、大学での学びの出発点なのです。

そして、大学では教育と研究とが一体となっていると言われますが、それは問いを立てるということが未知のことを未知のこととして明確に把握することであり、そのうえでその未知の事柄を何とか明らかにしようとするのが「研究」だからです。だから、大学での学びはしばしば「曖昧さ」や「未確定さ」と向き合う営みでもあります。立てた問いが果たして問うに値するかどうか、問いへの解答として見出されたものが本当に正しいのかどうか、別の解答はないのかどうか。このように、自ら考えながら、また、教員や仲間と議論しながら、新しい視点や価値を発見していくこと、これこそが大学の学びの本質であり、醍醐味です。

このような学びの姿勢は学部においても重要ですが、研究が主となる大学院においてはより一層重要になります。本学の大学院生の大半は本学の学部の卒業生ですから、また、地域情報学研究科という本学の大学院は、「情報学」という名称が付いていますが、地域経営学部と情報学部の両方での学士課程の学びを深めることができる場です。本学は小規模の大学ですから、学部の学生のみなさんは先輩の大学院生の姿を観ながら、学部でも「研究」と一体となっているという大学での学びのありようを身につけてほしいと願っています。

さらに、福知山公立大学での学びは、教室の中だけにとどまりません。福知山市をはじめとする北近

畿地域の現場とそこでの人との関わりの中にこそ、深く生きた学びが存在します。本学は設立当初から、北近畿地域の活性化を使命としながら、「地域協働型教育」を掲げてきました。この地に暮らす人々の生活、文化、経済、自然、歴史。その一つひとつが、みなさんの学びを刺激し、豊かにしてくれるでしょう。しかし、このような学びにおいては、地域から「与えられる」のを待つのではなく、「自ら動く」姿勢が何よりも大切です。

地域協働型教育はもちろん正課の授業でも行われますが、私は正課外でもみなさんが積極的に学外の広いフィールドに出て、地域のさまざまな課題を見つけ、そこから問いを立て、その解決に向けた活動をするなかで学びを深めてほしいと願っています。そのため本学では「STL (Students Launch)」という取り組みを行っています。これは学生のみなさん自らが立ち上げたプロジェクトや地域や社会に働きかける活動を支援する制度です。昨年度はプロジェクションマッピング企画や子どもの居場所づくり、食品ロス削減のための取り組み、それに能登半島地震の被災者支援のボランティア活動など、多くの意欲的な挑戦が生まれてきました。

これらの活動に共通しているのは、「自分の学びを、自分の手でつくっていく」という精神です。授業やゼミだけでは出会えない課題に、現場で触れ、自らの関心を深めていく。その過程で、教室で学ぶ学問が現実の中でどう生きるかを体感し、学びが真に自分のものになっていきます。

大学での学びは、受け身では深まりません。自ら動いた分だけ、世界は開け、自分の視野が広がっていきます。福知山・北近畿という地域をキャンパスに、自らの好奇心を解き放ち、自分なりの問いを育ててください。本学は、STL だけではなく、自ら学ぶ姿勢によるみなさんの活動を期待していますし、支援していきます。

すでに成人であるみなさんが学ぶ大学とは、自由と責任の入り混じる場です。最初は戸惑うこともあることですが、みなさんの今日から始まる本学での学びが、教職員、仲間、先輩たち、そしてこの地の人々と響き合い、未来へと続く希望の種となることを、心より願っております。

本日はご入学、まことにおめでとうございます。

2025年4月3日

福知山公立大学長 川添 信介